

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryu-u.ac.jp 飯田貴俊 才川悦子 入江一元 渋井徹 高橋昌己

【概要】

第1学年で修得した解剖学の知識と理論を体系化する。さらに、人体解剖見学により、人体の3次元構造を理解する。これらを通して、実学としての解剖学“臨床解剖学”を学ぶ。また、人体解剖見学を通じて、医の倫理について考察する。

【学修目標】

<一般目標>

将来、言語聴覚士として正確かつ適切なリハビリテーションを実施するために、臨床解剖学的考え方を学び、言語聴覚療法の理論を理解する。また、医療者として必要な医の倫理観を身につけるために、人体解剖見学を通じて、生命の尊厳について理解する。

<行動目標>

1. 頭頸部および胸部腹部器官の3次元的な配置と構造について説明できる。
2. 嚥下器官の構造・動態と嚥下機能を関連付けて説明できる。
3. 嚥下器官の構造・動態の異常が機能に及ぼす影響を推論できる。
4. 聴覚器の構造・生理と聴覚機能を関連付けて説明できる。
5. 聴覚器の構造・生理の異常が機能に及ぼす影響を推論できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 頭頸部・胸部・腹部の構造	・臨床解剖学の概要と今後の予定についてガイダンスを行う。 ・頭頸部、胸部および腹部器官の3次元的な配置と構造について学ぶ。	下村敦司
2) 4	嚥下器官の構造と嚥下機能	・嚥下器官の構造から食物移送を説明できる。 ・嚥下器官の構造から鼻咽腔閉鎖、喉頭閉鎖、食道入口部開大を説明できる。 ・嚥下機能と呼吸の関係を説明できる。	飯田貴俊
5	嚥下機能の制御	・嚥下機能と中枢制御を学ぶ。	飯田貴俊
6) 7	嚥下障害	・嚥下器官の構造と機能異常と嚥下機能に及ぼす影響を関係づける。	飯田貴俊
8) 9	嚥下機能の評価	・嚥下器官の構造と動態を観察する方法の概要を学ぶ。	飯田貴俊 下村敦司
10	聴覚器の構造と機能	・聴覚の構造から聴覚の仕組みを説明できる。	才川悦子
11	難聴と評価	・聴覚器の構造異常と聴覚機能に及ぼす影響を関係づける。 ・聴覚器の構造または生理を観察する方法の概要を学ぶ。	才川悦子
12	人体解剖見学ガイダンス	・人体解剖見学の注意事項を説明する。 ・献体について学ぶ。 ・生命の尊厳について学ぶ。	下村敦司
13) 15	人体解剖見学	・系統解剖を見学する。 ・実際の人体を観察し、発声・発語器官および摂食・嚥下器官の位置や構造、さらにこれらを支配する神経の走行を確認する。 ・実際の人体を観察し、中枢神経（大脳、小脳、橋、延髄、脊髄）の構造を確認する。	下村敦司 才川悦子 入江一元 渋井徹 高橋昌己

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

人体解剖見学の感想文 20%

レポート 80%

レポートで多かった誤り、特徴的な問題点について講義内で解説する。

【教科書】

使用しない。「解剖生理学」および「解剖生理学」で配布した資料
適時、資料を配布する。

【参考書】

Michael Schuenke 他 著 「プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部 第3版」 医学書院 2020年

Michael Schuenke 他 著 「プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第3版」 医学書院 2019年

Frank H. Netter 著 「ネッター解剖学アトラス 原書第6版」 南江堂 2016年

Richard L. Drake 他 著 「グレイ解剖学 原著第4版」 エルゼビア・ジャパン 2019年

【備考】

1. 第13～15回 人体解剖見学は3～5講目に関講する。開講日は掲示等で発表される。
2. 人体解剖見学の受講には、人体解剖見学ガイダンスを受けること、さらに実習後の感想文の提出を必須とする。
3. 授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示
 - ・ 授業に関わる連絡はmanabaさらにi-Portalを利用する。
 - ・ 資料資料の配信はGoogle Classroomを利用する。
 - ・ 学習課題の提示はGoogle Classroomを利用する。
4. 授業に関する意見交換
 - ・ manabaまたはGoogle Classroomを利用する。
5. 授業の理解度把握
 - ・ manabaのアンケート機能を利用する。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の参考書や配布資料を熟読する。また、理解不足の点はチェックしておく（80分）。

復習は、参考書や配布資料に基づき、または実習を通して学習し、十分に理解を深める（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

飯田貴俊（歯科医師）、才川悦子（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での実務経験を活かして、解剖と臨床の接点の理解が深まる講義を行う。